

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3671300550
法人名	社会福祉法人 那賀町社会福祉協議会
事業所名	グループホーム平野のどかの里
所在地	徳島県那賀郡那賀町平野字妙見1-1 (電 話) 0884-64-1234
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 12日

【情報提供票より】(平成19年11月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 25 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
常勤	7 人
非常勤	3 人
常勤換算	7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	(無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780	円

(4) 利用者の概要(11月19日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名	
要介護1	0 名	要介護2	5 名			
要介護3	2 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	82.6 歳	最低	67 歳	最高	96

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日の谷診療所
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、川沿いの山の手の小高い所にあり、旧小学校校舎を改造して作られている。木造2階建てで、一階は地域のコミュニティセンターとして利用され、二階部分がグループホームである。地域との連携は密に図られていて、隣接する体育館や運動場は、地域の季節ごとの諸行事に利用され、利用者もその都度招待されている。小中学生のボランティアスクールや高校生の体験学習等も受け入れるなど、相互交流がされている。地域包括支援センターとは研修等を通じ運営推進会議以外でも連携しサービスの質の向上に活かされている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である「利用案内文への理念の明示」は、利用案内文を一新したのに伴い「理念」も明示されている。「権利・義務」も契約書に明記されている。「申し送りノート」や「会議録」などに職員の閲覧確認の押印もされ、改善課題への取り組みが実行されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全員で読み、作成し、毎日のケアに活かせるように取り組んでいる。管理者からも、申し送り時に要所要所を伝えて、サービスの質の向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、「グループホームと地域の関わり方」といった話題から、職員が名札を付けること(新職員を利用者に馴染みやすくする為)や1階の「コミュニティセンター」と共同で使用している水道に関する問題が持ち上がった時の対処についての助言や支援など幅広い事柄が検討され、取り組まれている。参加者は利用者、家族、地域包括支援センター職員、町介護保険担当者、老人クラブ、民生委員等で構成されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や苦情は、手紙や、家族の面会時に直接聞くなどしている。出された意見、要望等はミーティングでよく話し合い、対応方法の検討や運営に活かされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームに隣接する運動場や体育館は、地域の文化祭、秋祭り、運動会、芸能大会に利用され、その都度、利用者も招待されている。小・中学生によるボランティアスクールや高校生の職場体験も受け入れている。地域の独居の方や家族に認知症のいる方の悩みや接し方の相談に応じるなど地域の方々とのつながりを大切にしている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に作られた理念であるが、地域密着型サービスとしての理念になっており、住み慣れた地域での安心した暮らしを支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は朝のミーティングで理念の意義を確認し、理念を実現できるように日々実践に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に地域の人々と交わす挨拶や野菜の差し入れなど日常的な付き合いから、文化祭、秋祭り、運動会、芸能祭などの地域行事に参加している。また、小・中学生のボランティアスクール、高校生の職業体験の受け入れなど地域との交流に努めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で読み、理解し、それをサービスの質の向上につなげている。外部評価の結果もミーティングで報告し、改善に取り組まれている。要改善となっていた申し送りノートや会議録の閲覧確認印も改善し実行されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催され、参加者は利用者、家族、地域包括支援センター職員、民生委員等である。会議は事業所からの報告と質疑応答の形で進められ、地域との関わり方や、1階コミュニティセンターと共同使用している水道問題への対処方法についての助言と支援、職員の名札付けへの提言などサービスの質の向上につながる助言を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター主催の研修に参加し、毎月一度行われるケア・カンファレンスには地域包括支援センター所長も出席され、意見交換をし、介護サービスの質の向上に活かされている。市町村担当とは運営推進会議以外には十分な連携はされていない。	○	市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する関係を築き、連携できる関係作りをされたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	手紙で利用者の健康状態や生活状況を写真を添えて報告している。緊急時は電話連絡をしている。職員の異動についても、その都度報告されているが、今年度は異動が多くあり、報告が間に合わず家族に十分理解が得られていなかった場合もある。	○	家族への報告を必要に応じて適切に行えるよう取り組みを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や苦情は、家族訪問時の話し合いや手紙などで受けている。出された意見は、ミーティングでよく話し合い統一した回答をだしている。また、運営推進会議でも苦情や意見を表明できる機会を作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は、退職者が多く新しい職員が入って来られたため、利用者のなかには、馴染めず落ち着かない方もいた。新しい職員は、利用者への挨拶や自己紹介を丁寧にし、打ち解けた馴染みの関係作りに努力されている。	○	職員の異動や離職を必要最小限に抑えるよう取り組んでいかれたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はグループホーム協会主催の研修や地域包括支援センター主催の研修に参加し、学習に努められている。研修内容は朝のミーティングで報告されている。しかし、退職者の多かった今年度の場合、研修に出るとホームの勤務が回らなくなるので制約を受けるのが実情である。	○	長期間にわたって、利用者や馴染みの関係を築いていくことができる職員の育成が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に加入し、他の事業者と交流する機会を持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の希望があれば、ホーム内の見学からはじめています。利用を決められても家族や関係者に面会に来てもらったり、外泊や外出の体験を重ねながら次第に馴染んでもらうよう取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者はそれぞれに生活経験の豊かな方々である。そこから教えられることも多いので、個々の利用者に応じて、思い出を引き出したり、その経験が活かされるように場面のセッティングをしたりしている。利用者は人生の先輩であるという考えを職員は共有し、ケアに取り組みされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員との日々の関わりの中で、言葉で意思表示ができる利用者には、それに適した適切な対応をされ、言葉で意思表示できない方には表情や態度から真意を推し測ったり、場合によっては家族の意見を求めたりして意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や利用者本人の思いや意見を聞き、カンファレンスを行い、職員全員で意見交換をして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた定期的な見直しや、個々の利用者の状態についての情報を確認し、ご家族や利用者本人の要望などを検討し、随時見直しがされ新しい介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの指定を取っており、これまでに地域の方2名が利用され、現在も在宅で元気に過ごされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。受診支援は、普段、短時間で済む受診や家族が同伴できない場合だけ代行し、長時間ホームを空ける点滴や前もってわかっている検査は家族が同伴されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、利用者、家族と話し合い、方針の共有がされている。看取り期にいたる直前まで「ホーム」で過ごされた方もおられる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレへの誘導や食事の介助に際しての利用者への声かけや対応は、誇りやプライバシーを損ねない配慮がされている。記録等の個人情報についても職員間でプライバシーの確保についての意識を共有されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本的に決まっているが、個々の利用者のその日、その時の体調や気持ちに配慮して、適切に対応することを心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と相談しながら作成している。季節ごとの旬の料理の調理方法を教わったり、盛り付けや片付けもできる利用者には声かけをしたり、場面作りをされている。食事は、利用者、職員と一緒に食べており楽しい雰囲気作りがされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほとんどの利用者が入居時には入浴を嫌がったが、季節に合わせた入浴剤を使用した湯浴みはすべての利用者が楽しんでおられる。入浴時は利用者の体調に十分配慮して、適切な入浴支援をされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の得意な方には、毎日の食事作りや行事の時の食事作りに際して作り方を教えてもらったり、遠足や地域の行事への参加等、役割分担や楽しみごとの支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ、喫茶店など外出は積極的にされてる。出かける時は、全員で出かけるほうが利用者も落ち着いており、全員で外出するようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は基本的に鍵を掛けないことになっている。2名の利用者は、他人が入るのを嫌がり常に鍵をかけている。玄関は、徘徊での外出によるリスクを避けるために家族に説明し理解を得た上で、外からは開けられるが、内側からは開かない鍵を取り付けている。	○	玄関の鍵をかけない取り組みをされたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年はホームを中心にして地域の方々と共同で行う防災訓練を実施した。利用者や職員が避難する場所も確定された。ホーム自身の訓練としては、自主防災、避難訓練を利用者、学童(学童保育の児童)、職員で行い、災害時に対応できるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格をもった職員が利用者の一日に必要な栄養摂取量や水分摂取量を把握して調理に当たっている。利用者の毎日の食事や水分摂取量は記録され職員も把握している。利用者の体調に応じ、普通食、キザミ食、流動食で嚥下にも気配りをした支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	旧校舎の教室だった居間は、南側の窓に沿って畳敷きの床(とこ)が作られ、フロアには木作りのテーブルや椅子、テレビが置かれており、利用者の憩いの場となっている。窓は大きく明るいですが、カーテンによって、採光にも不快感がないように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の好みに従って、趣味の手芸作品やお気に入りの写真集、ラジオなどが持ち込まれ置かれている。加湿器を置かれている利用者もいて、一人ひとりが思い思いの居室作りをされ、居心地よく過ごす工夫をされている。		